

製品名: アデュシン α/β (リン酸化 Ser726/713) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04204**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	80kDa

抗原情報

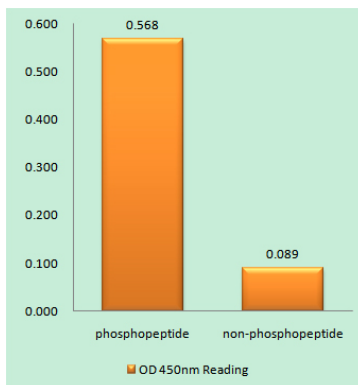
遺伝子名	ADD1/ADD2
別名	ADD1; ADDA; Alpha-adducin; Erythrocyte adducin subunit alpha; ADD2; ADDB; Beta-adducin; Erythrocyte adducin subunit beta
遺伝子 ID	118/119
SwissProt ID	P35611/P35612
免疫原	抗血清は、Ser726 のリン酸化部位周辺のヒト ADD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 688-737

背景

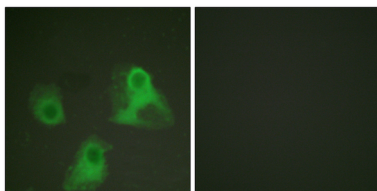
ADD1 (ADD1) Homo sapiens ADD1は、3つの遺伝子 (α , β , γ) によってコードされる細胞骨格タンパク質のファミリーです。ADD1は、異なる遺伝子から生成されるものの類似の構造を共有する関連サブユニットからなるヘテロ二量体タンパク質です。 α -ADD1と β -ADD1には、プロテアーゼ耐性のN末端領域と、プロテアーゼ感受性の親水性C末端領域が含まれます。 α -ADD1と γ -ADD1は普遍的に発現します。対照的に、 β -ADD1は脳と造血組織で高レベルで発現しています。ADD1はCa²⁺/カルモジュリンに高い親和性で結合し、プロテインキナーゼAおよびCの基質です。選択的スプライシングによって、異なるアイソフォームをコードする複数のバリエーションが生じますが、すべてのバリエーションが完全に説明されているわけではありません。[RefSeq提供、2008年7月],代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる,ドメイン: 各サブユニットは、3つの領域 (NH₂末端のプロテアーゼ耐性球状ヘッド領域、短い連結サブドメイン、およびプロテアーゼ感受性テール領域) から構成される。機能: スペクトリン-アクチンネットワークの構築を促進する膜細胞骨格関連タンパク質。カルモジュリンに結合する。PTM: N末端はブロックされている。類似性: アルドラーゼクラスIIファミリーに属する。ADD1サブファミリー。サブユニット: α サブユニットと β サブユニット、または α サブユニットと γ サブユニットのヘテロダイマー。ROCK1に結合する。組織特異性: すべての組織で発現する。網状赤血球では β サブユニットよりもはるかに高いレベルで存在する。、

研究分野

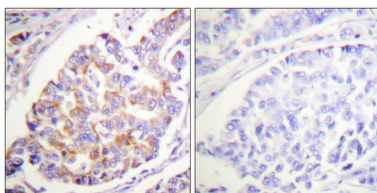
画像データ



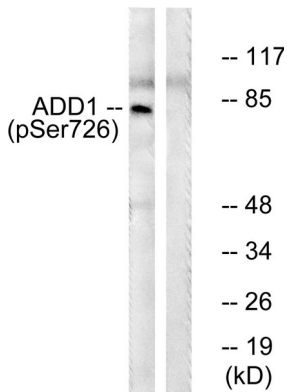
ADD1 (リン酸化 Ser726) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



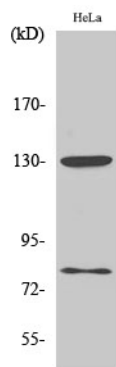
ADD1 (リン酸化 Ser726) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



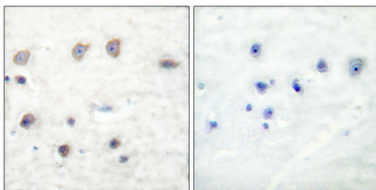
ADD1 (リン酸化 Ser726) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォスコリン 40nM 30 μ L 処理した HeLa 細胞ライセートの ADD1 (リン酸化 Ser726) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホアデュシン α/β (S726/713) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4 $^{\circ}$ C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。